

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174200204		
法人名	別海厚生企業組合		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	北海道野付郡別海町別海鶴舞町6-45		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に職員全員が利用者の立場に立って、一人ひとりの尊厳を守るケアが出来るよう試行錯誤で取り組んでいる。十分とはいえる状態ではないのでいろいろな情報等を吸収しながら皆で持ち寄りながら目指している。質を高めたケアをおこないたいと望んでいる職員が殆どであることなど。又住居内は、お互いが思いやりながら毎日楽しく笑いがほぼ絶えない空間となっているし、目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174200204-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174200204-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年3月14日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「誰もが住み慣れた地域で安心して生活が継続できる町づくりの一翼を担う」。当ホームの理念です。一般的に、私たちの生活は、家庭内のみで完結するのではなく、地域や社会との関係の中で成立しています。そういう意味では、すずらん別海を利用している高齢者の生活の在り方を考えるあたり、町づくりへの視点は、利用者の生活の質の向上をめざす大きな要素の一つといえます。すずらん別海と利用者家族との信頼関係のあり方も大切な要素です。利用者家族からのアンケート回収率が高く、家族が寄せる期待感と安心感の高さをみる事ができます。日頃の利用者支援の中で、職員の誠実な態度が利用者家族の安心につながり、これらを背景とした、ご本人・家族・職員が一体となった町づくりへの期待が広がります。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在目標をもって取り組んでいること事態がすべて理念に沿っているものである。	管理者は地域への視点を確立し、会議などを通して理念を職員全体に周知し、職員の理解も進んでいる。また、職員全体に理念を達成するよう日々努力している姿勢がみられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域における理解も得られ、一住民としての生活が行えている。町内会参加に関しては町内会での位置づけが決まらず、暫定的会員として登録されている。個人の入会の場合住所がない方が殆どであるため。事業所は前例がないとの理由	事業所を設立してから10年を迎えるにあたり、町内会行事の参加や外出の機会を通し、地域との良好な関係づくりに配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪れる家族、施設見学者、ボランティアに対しては、必ず認知症の人の理解や支援方法等を伝え、当たり前のように生活ができるように理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で提案されたことは、活かすようにしている。低所得者に対する入居について利用料などを通して話し合ったり、現状としての問題点なども話し合ったりしている。前回の運営推進会議の報告を受けての話し合いもおこなっている。	年6回の運営推進会議を開催、行政、地域包括支援センター、民生委員、家族等の参加を得て、外部評価の報告をはじめ、避難訓練の実施と問題点の整理を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当グループホームでの内容等については、殆ど理解できている位に連絡、相談が密に行われている。制度上や職員配置など気軽に相談できている。	定例的な運営推進会議への出席、外部評価の意義等についての説明、避難訓練の際の相談などをおこなっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成23年9月2日には、GH協会による「身体拘束・虐待」の研修会に参加し改めて学んでおりそれを勉強会で周知し身体拘束のないケアに取り組んでいる。(玄関の施錠は平成18年位から行っていない)	利用者への寄り添うケアの実践を通し、職員は利用者との信頼関係づくりを大切にしながら、身体拘束のない生活づくりに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成23年9月2日には、GH協会による「身体拘束・虐待」の研修会に参加し改めて学んでおりそれを勉強会で周知し身体拘束のないケアに取り組んでいる。(玄関の施錠は平成18年位から行っていない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で学ぶと同時に、権利擁護やその問題点など踏まえて話す機会を作っている。契約時を説明おこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安を残さぬよう十分に説明や理解を得ている。その後も常に疑問点は質問を受けられる状態としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をおこなっている。その他利用者、家族との会話の機会を十分とり信頼関係を構築し意見を聞けるようにしている。前回の家族ノートはうまく活用できず廃止とした。(会話が先行するため、家族を含めての会議の機会を作っている。)	職員は、利用者・家族からの意見・要望を十分に聞けるよう、日頃から寄り添うケアの実践と家族の来所の際には、職員が話を伺うよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	組織組合の体質上、全員が組合員であり経営者の一員であるため、意見、提案することが望ましいと考えている。意見は出せるようにしているし、多く反映させている。又ヒヤリハットなどの報告書の中から拾い上げ反映させることもある。	管理者は、職員個々の意見に耳を傾ける姿勢を堅持し、会議などでは意見が活発に交わされる。また、記録も整備されている。	今後の更なる発展のためにも、人材育成の仕組みづくりに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は給料表をもとに資格、勤続年数、役職により基準が決まっている。年に一度の昇給がある。職員のやりがいにつながるための役割分担や職場環境の整備など常に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加の機会を増やせるよう、法人外の研修会への積極的参加やGH協会の中標津支部(仮称)の役員となり自ら研修の場を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とともに、研修会の取り組みを行っており、勉強会や職場交流も考えている。常に情報の共有をはかり連絡を取り合っている。職員の見学も自由となり、行き来が自由である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に限らず、信頼関係構築のため利用者のことには常に耳を傾け不安を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の安心に答えることが出来るよう誠心誠意対応し信頼関係構築のため努めている。特に初めは小まめな様子なども電話等で報告し安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までの経緯など十分に聞き取り、生きがいや安心して生活できることを第一優先と考え支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるところを見極める努力をして、出来ないところのみ手伝わさせていただく態度で接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアに関しては、家族と相談したり、報告しながら同じ気持ちでケアに取り組むようにしている(家族としては、迷惑を掛けているのではないかと思いがちなため)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所や、物、会話友人等を通じて関係が途切れないよう努めている。情報の収集を積極的におこなっている。実際の交流は少ない。	職員は、入居時に本人及び家族から生活状態や生育歴などの情報を聞き取り、また、ホームに家族が来所した際には、積極的に聴取するよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を活かして、楽しく過ごせるよう意識している。食事や家事、その他作業の組み合わせなどもその日に応じて配慮している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了(殆どが亡くなっているが)家族を行事に声をかけたり、お参りに行ったり、8年間ずっと関係が継続している家族もいる。お互い感謝の気持ちを感じながらフォローし合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人第一優先を目指し支援を目指している。十分だとは思えないが、全職員が其の方にとって楽しめること、体に良いことを常に考えている。	利用者の言葉・しぐさなどから本人の思いを把握できるよう、常に寄り添うケアの実現をめざしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム入所から継続して、家族や兄弟などから情報を頂き何ができて何が困っているかなど把握に努めそれに向かって努力ができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調面、精神面の把握は全職員間で話し合いや声のかけ合いなどが積極的におこなわれている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や担当職員、主任、管理者または職員全体の意見を聞き入れながら、介護計画を作成している。	本人・家族を交え、担当者会議を開催している。家族の都合がつかない場合は、事前相談や報告を励行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員から細かな情報収集が出来るよう主任を中心として情報を共有している。ミーティングに際しても気づきや工夫を話し合う場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位のケアから、既存のサービスにとらわれることなく、本人にとって一番必要なサービスが出来るよう全員が取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の開拓がうまくできていない。全職員も認識不足な部分が多々あるが、より社会資源を利用し生活に張りをもてる取り組みは必要としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必然的に町の病院がかかりつけ医となっている現状である。訪問診療や、看護師の雇用により連携が深まってきており、以前よりも信頼関係もできてきている。	町の医療機関と常に連携し、家族との相談を密にしながら、病院受診を支援している。また、看護師を採用し、利用者の日頃の心身の状態の確認、医師との連絡をはかっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の訪問があり、情報を常に報告し、相談し個別の対応をおこなっている。利用者の満足度もみられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の混乱が予想されるため、顔を出し安心できるようにしている。病院側も入院時の生活が本人にとって好ましくなっていないと感じているので、時には治療半ばとなる位の極端なことも見られる位である。こちらからは早く帰れるようには必ず要請している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に関しては、契約の段階からも相談し家族の希望や事業所としての指針に対して同意を得ている。又その都度話しあいの(必要ときは医師も含めて)機会を設けている。	重度化・終末期に向けた対応については、文書により家族に説明し、同意を得ている。また、重度化した利用者への支援を、可能な範囲内で対応するよう配慮がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習会の参加や、緊急時の連絡網も徹底等おこなっている。いつ何時でも主任管理者が連絡を受け対応できるよう連携をとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防や地域を取り組んでの訓練をおこなっている。今回地震時の避難方法や、非常食についての計画を立てていく予定あり。	法人全体で防災対策会議を設置し、利用者の安全に対し協議をしている。また、定期的な避難訓練を町の消防署の指導のもと運営推進会議スタッフと共に実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが、敬語を意識し、丁寧な声かけで信頼関係を作れるよう努力し取り組んでいる。	利用者とのコミュニケーションを円滑にはかるために、職員は会議等を通じ、援助技術の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な発言ができる環境や、関係づくりが比較的できている。決め付けるのではなく、選んで決めてもらう場面を多く作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりはすべて利用者中心からなっているため、職員側のペースに合わせていることはないが、結果的にそうなっていることが皆無ではないと考えられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前に比べより、職員の意識もかわり、利用者に対する身だしなみやおしゃれの支援ができている。起床時の髪、伸びた爪、入浴後の肌の手入れ、小まめな更衣などなど		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、食器拭き、調理、下ごしらえなどしているが、もう少し調理に関わる時間をとり利用者が主体的に参加する場面を作っていきたい。食事中は会話が弾みとても楽しくできている。	利用者個々のできることを依頼、職員が利用者とともに食事をとっており、とても和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が、利用者の食事量、水分量を把握できるようになっている。食事が摂れない時は、他のもので代用し栄養が取れる工夫も全員ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じながらケアを行っているが、其中でも全員の就寝前の義歯洗浄剤の使用と義歯ではない場合は職員の口腔ケアの支援をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	数名の方たちが、リハビリパンツから布の下着へと変更できている。トイレでの排泄を目指し時間をみて細かな声かけをおこなっている。入居者全員がトイレに座っていただいて排泄を目指している。	利用者個々のトイレでの排せつを目指し、職員全体の意思統一が図られている。また、実際に際し、記録・引継ぎなどがきめ細くこなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼り過ぎないようにして、其の方にあった方法や、食品を利用して便秘解消に取り組んでいる。(ヨーグルト、でるでるファイバー、こんにゃく、食物繊維、マッサージ、温湿布など)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、希望があればいつでも入浴が出来るが主に午後が多い。たくさんの利用者が希望するときは、ゆったりと入浴に欠けてしまいがちである。いつもにない時間に入浴の希望があっても出来る限り沿っている。	入浴日・入浴時間は決めずに利用者の気持ち、自宅でのリズムを尊重して入浴出来るよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝がゆっくりめな方はゆっくり起きていただいたり、日中倦怠感のある方は、居室で休んでいただいたり臨機応変な対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類が多すぎて、何も見ずに全て即答できる状態ではないが、誰が何をなんのために飲んでいるか、副作用など知ることが出来るようファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員全員が、利用者の好みに応じて楽しめる工夫をしている。昔の玩具や食べ物、外食や外出など。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があっても、すべての対応ができていない。したいと思っている職員も多く、計画も立てている。普段行けないような場所への家族、地域の支援の協力は神社祭、遠足、もちつきなどくらいである。	ホームのそばに畑があり、入居者・職員がともに「耕す・収穫」したり、外に設置されているベンチなどで日光浴をおこなっている。また、地域の行事、町の行事など定期的な外出の機会を確保している。	外出の機会は、社会参加の上では大切な要素の為、ご家族を交え、入居者個々が行きたい場所や、そのための支援のあり方などを検討されるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際は、できる方は自分で購入していただいている。其のときの状況によって支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話、年賀状、職員との交換日記など本人が望む支援を行っている。こちらから促し、支援することもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境づくりは、職員自身も含めて影響していること意識しているが、ときには雑音があったりするときもある。場所に関してはだれでもわかりやすい表示にしてあり混乱を避ける努力はしている。	共有空間には、利用者の習字・絵などの作品、季節が感じられる展示物がみられる。また、日当たりもよく、ホール全体にゆったりした雰囲気を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由な場所で過ごせるようにしている。にぎやかなところ、静かなところなど自由に選べるような環境づくりにこころがけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、必ず使い慣れたもの、馴染みのある物を用意していただけるように相談している。不足しているときは、職員が写真や、切り絵などの壁かざりなどで暖かみのあるスペースを醸し出している。	個室には、入居者個々の馴染みの物が置かれている。また、本人・家族との相談を通し、居心地良くなるような配慮がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱無く、安全に支援できる環境づくりをおこなっているため、自由に行動できるようになっている。又車椅子が多くあるため時には歩行の妨げになってしまうこともあるが、極力全員が気をつけている。		